

釧路南ロータリークラブ会報

第 34 回 例会 報告 2012.3.9 通算 1434 回

・点 鐘 長倉会長

・誕生祝
清水 哲会員 S6. 3. 13 (81歳)

・ロータリーソング
「我等の生業」

ソングリーダー 清水 哲会員

・お客様と来訪ロータリアンの紹介
第 2500 地区ガバナーノミニー 葭本正美君
次々年度地区幹事 漆崎 隆君



第 2500 地区ガバナーノミニー 葭本正美君

・会長挨拶



本日は、3 週間ぶりの、本拠地ロイヤルインでの例会です。今日のプログラムは、環境ということで難しいテーマですが、どんなスピーチが聞けるか楽しみです。まもなく東日本大震災から 1 年ですが、国際環境 NPO グリーンピースによると、世界最悪企業ランキングで東京電力が世界第 2 位となったようです。環境を悪化させた張本人というところでしょうか？企業は環境破壊の事を充分考えて仕事をしなければならないのは当然の事ですが、何か産業と環境破壊は切り離すことがそんなに難しいのかと残念に思えます。

かたや、静岡県では、静岡市、浜松市が進まないガレキ処理の受け入れの試験焼却を始め日本全体に広がりを見せるのか注目されると思います。静岡市長が言っていたのか定かではありませんが、「震



次々年度地区幹事 漆崎 隆君

災が起こり東北が大変な状況な時に首長としては有権者がなんとおもうとガレキの受け入れをする。それが真の政治家、首長であって、絆とはそういう事だ」と言っておりました。当然、受け入れると風評被害の問題も発生していますが、ある静岡のお茶会社の社長は、「今まで東北の人にもお茶を買ってもらっていた。今度は我々が恩返しをしなければならぬ」と多に賛成だと言っています。

こんなことを言える「侍」がまだ日本に残っていたかと思いました。流行語のように言われ続けてきた「絆」という言葉の意味が本当の意味で日本中に問われてきております。すでにガレキの受け入れマップも存在し絆が図示化されています。傾向的には、東北はもちろん受け入れです。北海道も受け入れ各自治体でも受け入れ地区が多いかと思えます。イメージ的には、東北と北海道、東京周辺、大阪、京都、高知。それ以外は困難、反対、検討予定なしということです。(1月31日現在、方針変更有) 因みに、道は受け入れ。札幌、釧路、旭川は拒否です。もちろん、住民意見や焼却施設の規模も関係してきますので批判するつもりではありません。ただし、すでに東北では、ガレキの焼却があちこちで実施されています。

当クラブの例会場移転の件は、ロイヤルインは、原田会員へ。東急インは、大田支配人へ連絡済みです。

・幹事報告



- * 釧路北 RC、釧路西 RC、釧路東 RC、釧路ベイ RC、浜中 RC 様より 3月プログラムを拝受しております。
- * ガバナー月信 3月号が届いています。
- * 2500 地区ガバナー事務所より「地区事務所常設の件につきまして」準備委員、検討委員からの報告、固定時期は、10月、地域は「北見市」です。

- * ボーイスカウト日本連盟から、(第23回世界スカウトジャンボリーの開催、2015年山口県) 支援のお願いが届いています。
- * 地区協議会案内が届いています。
4月21日(土)～22日(日) 北見市にて開催。
IMの参加について 3月10日(土)14時 釧路キャッスルホテルからです。

・委員会報告 親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金
清水 哲会員 誕生祝として

出席委員会

会員23名 10名出席 出席率43.5%
メーキャップ2名で、修正出席率52.2%

・本日のプログラム

「ゴミ、環境問題を考える」

担当 環境新世代委員会

◆上川原 昭会員



日本は、近年大量生産、大量消費、それに伴いゴミの排出量も増大してきた。家庭や職場などから出る一般廃棄物(ごみ)の総排出量は、昭和60年前後から急激に増加し、平成12年度までほぼ一貫して増え続けていた。その後、穏やかな減少傾向をたどっているが、平成19年度において国民一人当たり約1.1kgのごみを出していることにあります。また、ごみ処理にかかる経費は、平成19年度で年間1兆8,659億円(国民一人当たり14,600円)となっており、ここ数年は横ばい傾向をたどっている。家庭ごみの有料化は、廃棄物の排出量の増加に伴い、その処理について一定の経済的負担をさせることが受益者負担の観点から公平であること。一般廃棄物処理の有料化によって減量化に一定の効果が見込まれる

ことなどの理由から、導入が進んでいる。導入メリット及び課題としては以下が考えられるが、少なくとも「ゴミを出すに費用が発生する」という意識の浸透には役立っていると言えよう。

・導入によるメリット

排出されるゴミの量が減少する。ゴミ減量化のために、消費者がゴミとなる製品の購入を避ける、ゴミを出さないライフスタイルを心掛けるなどの期待もできる。過剰包装の敬遠。リサイクル向けに行われる集団回収への参加。使用済み製品のフリーマーケットへの出品。生ごみのコンポスト化など。一人ひとりに、ごみの排出者としての意識が芽生えることにより、循環型社会の形成について理解が深まり、自主的な取り組みが進展することが期待される。実際に導入している市において、有料化により分別に対する市民の協力が進むという効果があった。ゴミの排出量に応じた負担を求める制度であり、公平性に適っているといえる。

・導入に際しての課題

導入により不法投棄が増加する懸念がある。導入後にはゴミの排出量は減少するものの、手数料の額が一定の場合には長期的には徐々に増加する場合もみられる。日常生活に伴うごみの排出を完全になくすることは不可能であるとの指摘がある。別途、リサイクルに回すことができる仕組みとして分別回収の仕組みを整備する必要があるとの指摘がある。

釧路市の一人あたりのゴミの排出量(資源物を含む)は、全国平均に比べて約1.04になっており、ゴミの減量が課題となっています。皆さんのできることから、取り組んでみてください。平成19年度の一人1日あたりのゴミの排出量は、釧路市平均1,128g、北海道平均1,134g、全国平均1,089g平均です。

●ゴミを減らすキーワードは4つのR

リヒューズ (Refuse)・・・断る　　ごみになるものをつくらず、不要なものを断ること。

リデュース (Reduce)・・・減らす　　ごみになるものをできるだけ減らすこと。

リユース (Reuse)・・・再使用　　一度作られた製品は何度でも繰り返して使うこと。

リサイクル (Recycle)・・・再資源　　再使用できないものでも資源として活用すること。

●ゴミを減らす基本は、「リヒューズ」ゴミを作らないことです。

●生ゴミを水切りでゴミの減量！

生ゴミは約5割が水分となっています。水切りをすることで約2割の減量になります。

(水切りのポイント)

- ① 乾いている生ごみは、濡らさないようにしましょう。
- ② 水切りネットにいれ、ギュッと絞ってから、ゴミ袋にいれましょう。

《資源リサイクル》

平成14年度の全道における一般廃棄物の総排出量は、約272万tで、このうちリサイクルされた量は約34万t、割合で約11.9%となっています。また、平成14年度に道内で発生した推計される産業廃棄物の排出量は約4,106万tで、このうちリサイクルされた量は、約2,078万t、約51%となっています。平成16年度の釧路市の状況は、市で処理したゴミの量のうち、リサイクルされたものを示す資源化率は8.1%でした。また平成13年度に市が行った資源化の量に民間の直納問屋を通じてリサイクルされた量をあわせたリサイクル率は23.6%でした。わが国では、平成元年度以降毎年年間約5,000万tの一般廃棄物が排出されています。排出用はここ数年横ばいの傾向が続いていますが、平成14年度は、総排出量5,161万t(平成13年度5,210万t)、国民一人1日当たり1,111g(平成13年度1,124g)となっています。また、全道の一般廃棄物の総排出量は、平成13年度は約275万t、平成14年度は約272万tであり、平成14年度の道民一人1日当たりのゴミ総排出量は1,306gとなっています。これは全国平均と比較しても多いこととなります。釧路市の状況は、平成16年度の釧路市の一般廃棄物の総排出量は約10万5千tで、その内訳はおもに家庭ゴミである計画収集のゴミが約7万4千t、おもに事業系のゴミである自己搬入のゴミが約3万tとなっています。



・次回のプログラム

3月16日(金) 休会

3月23日(金)

「IMを終えて」

会場 釧路ロイヤルイン 11F

担当：会長・幹事

・点 鐘

長倉会長

今週の会報担当：福井克美会員